プロジェクト「食の方舟」発起人会 設立趣意書

命のタスキを未来へつなぐ――100年後の子どもたちの食卓を守るために

私たち人類は、数百万年という遥かなる歴史のなかで命のタスキを受け継ぎ、いまこの世界に生きています。いま現在を生きる私たちの使命は、この命のタスキを確実に、そして健全な形で次の世代へ手渡していくことにあります。

しかし、一見豊かに思える現代社会は、気候変動や環境破壊、増え続ける病など、さまざまな要因によって足元から揺らいでいます。このままではタスキをつなぐどころか、社会そのものが私たちの世代で持続不可能となってしまいかねません。

中でも最も懸念されるのが、命の源である「食」の崩壊です。

誰も問題にしない「天然資源の枯渇」と「伝統食文化の危機」

現代の食を支える農業は、化学肥料や農薬に依存しています。しかし、窒素・リン・カリウム肥料や農薬の原料となる天然ガス・鉱石・石油はすべて有限な天然資源です。これらはあと100年から200年で枯渇すると指摘されており、このまま放置すれば、100年後の子孫は食べ物そのものを失うことになります。

一方で、100年以上前から研究・実践され、環境に負荷をかけない「自然農法（無農薬・無肥料栽培）」は、理解者や実践者が少ないために耕作面積が広がっていません。さらに、日本の食を根底で支えてきた伝統的な味噌・醤油の醸造所や木桶職人は、販売の伸び悩みや後継者不足により次々と途絶え、伝統的な和食の技術と文化は消滅の危機に瀕しています。

分断された「良質な食」を統合する「経済システムのひな形」

現代社会は、豊かになったと言われてきました。しかし実態は大量生産・大量消費の生活が広がる陰で、ひたすら品質が劣化していたことに、私たちはそろそろ気づかねばなりません。

とはいえ、「良質な食を絶やすまい」と、農家、加工業者、流通業者、そして消費者――誰か一者だけが孤軍奮闘しても、現代の食の問題は解決しません。良質な食料を持続的に届けるには、生産から加工、流通、販売、消費に至るすべてのプロセスがひとつに繋がった有機的な「経済システム」が必要です。そのためには、各分野の事情や問題点に精通し、的確につなぎ合わせる強力なコーディネート機能が不可欠です。

私たちは15年の歳月をかけ、農薬や肥料に頼らない農作物の生産を起点に、味噌・醤油などの発酵食品、さらにはそれらを使った加工品に至るまで、小規模ながらすべてが連動した「食料生産システムのひな形」を実際に構築・実証してまいりました。（ロードマップ参照）

プロジェクト「食の方舟」の提案と今後の展望

私たちは、この15年で培った仕組みをさらに発展させ、より多くの人々が安心して食べられる本格的な食料生産・供給システムを確立すべく、新プロジェクト「食の方舟」を始動いたします。

なお、本プロジェクトは、これまで個人や事業者同士の信頼関係によって支えてきた活動を、特定の個人だけに依存せず、長期にわたって継続できる社会的な仕組みへと発展させる必要があります。そのため、目的と責任の所在を明確にし、幅広い人々が参加・協力できる推進母体として、一般社団法人の設立を目指し、以下の取り組みを展開してまいります。

生産・加工ネットワークの拡大

穀類や野菜だけでなく、肉・魚・食用油脂・酒・みりん・砂糖など、未開拓分野の志ある生産者・加工業者との連携を急速に推進します。

新規参入・実践の支援

プロジェクト支援者の中で、生産や加工などのプロセスに新たに参画・事業化を希望する方々へのバックアップおよび橋渡しを行います。

持続可能な運営基盤と支援者還元

年間1万円の支援金を募り、システム構築の運営費に充当します。支援者の皆様には、事業成果を確認していただくため、伝統製法の味噌・醤油セットなどをお届けするほか、本プロジェクトで取り扱う農産物や加工品を製造原価に近い特別価格で購入できる仕組みを提供します。

おわりに――ともに「笑顔の食卓」を創る仲間を求めて

本プロジェクトの発展は、100年後の子どもたちの笑顔に直結しています。そして何より、現代を生きる私たち自身が豊かな食を通じて笑顔になるからこそ、その「笑顔のタスキ」が未来へと手渡されていくのだと信じています。

ここに「食の方舟」発起人会を設立し、志を同じくする多くの皆様のご参加とご支援を心より呼びかけます。

私たちとともに、未来へつながる笑顔の食卓を創っていきましょう。

2026年10月8日

プロジェクト「食の方舟」発起人会代表　横内 猛